

受領No.1507

体液性因子による内臓脂肪 - 副腎連関に着目した アルドステロン過剰分泌機構の解明と治療標的の探索

代表研究者 小林 洋輝 日本大学医学部 内科学系腎臓高血圧内分泌内科学
分野 専修医
共同研究者 ジュン・ヤン モナッシュ大学 内科学分野



Investigation of pathophysiology of aldosterone overproduction based on visceral fat–adrenal linkage through humoral factor

Representative Hiroki Kobayashi, Division of Nephrology, Hypertension, and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Nihon University School of Medicine, Attending physician
Collaborator Jun Yang (MBBS, FRACP, PhD) , Department of Medicine, Monash University, Australia

研究概要

二次性高血圧の代表疾患である原発性アルドステロン症（PA）は、外科手術の適応となる片側性アルドステロン産生腺腫：APA と、内科治療が一般的な特発性アルドステロン症（両側性副腎皮質過形成：IHA）に大別されるが、KCNJ5 遺伝子等の体細胞変異が原因とされる APA に対し、IHA の病因は未解明であり治療方針決定のための両者の鑑別法も確立されていない。

本研究では、体液性因子としてマイクロ RNA（miRNA）と蛋白に着目し、「IHA では脂肪細胞由来の体液性因子が副腎アルドステロン分泌制御に関与する」という仮説を立て、PA 患者の血液検体を用いた網羅的 miRNA、蛋白の測定を通じて IHA に特徴的な体液性因子を明らかにし、① IHA の病態解明と治療標的の同定、②診断のための新たな血中バイオマーカーの同定を目的とする。

本研究により患者の QOL 向上に貢献するとともに高血圧診療の質的向上と医療費軽減に貢献しうる。